

事業所名 お花ちゃや亀有 放課後等デイサービス

支援プログラム

作成日

2025年

10月

21日

法人（事業所）理念	・小さな要望にも耳を傾け、心を込めて支援を行う。・どんな時も明るい笑顔と挨拶を欠かさない。・安心安全な環境作りに努める。・仲間を尊重し、チームワークで職務に臨む。・法令を遵守し、健全で適切な施設運営を行う。							
支援方針	私たちは、利用者および保護者の要望を尊重しながら、総合的な支援目標を設定し、一人ひとりに応じた支援プログラムを策定する。退所後の生活を見据え、自立した生活および社会生活を営む力の育成を目的として、＜健康・生活＞＜運動・感覚＞＜認知・行動＞＜言語・コミュニケーション＞＜人間関係・社会性＞の五つの領域に基づいた支援を行う。職員はチーム一丸となり、個別支援および集団活動の両面から関わることで、子ども一人ひとりが本来有する力を最大限に伸ばす。							
営業時間	学校課業日	13時45分	から	17時45分	まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	食事・整容・排泄・衣類の着脱・支度など自立生活に関わることを普段の支援の中に組み込み、自然な形で支援を行う。さらに園芸活動や食育活動を通じて心身の健康や生活スキルの向上を目指していく。						
	運動・感覚	公園での遊具遊びや球技練習などを通じて、粗大運動能力および身体のバランス能力の向上を図る。また、コラージュやデコパージュ等の制作活動を取り入れ、微細運動能力の向上を目指す。さらに、砂遊びや水遊びなどの感覚遊びを加え、さまざまな素材に触れる経験を通して、触覚・視覚・固有受容覚への感覚刺激を行う。						
	認知・行動	紙コップタワーや立体パズルなどの組み立て活動を通じて、空間的な判断力や立体構造の理解力を育てる。あわせて、視覚情報を整理し、先を見通して行動する力を養うため、視空間認知能力の向上を目的としたトレーニングを行う。						
	言語 コミュニケーション	利用者の意思表示を支援するため、言葉カードやひらがな積み木などの教材を用いて発話を促す。また、ドロップスカード等を活用した視覚支援を取り入れ、視覚的手がかりを用いたコミュニケーション能力の向上を図る。						
	人間関係 社会性	外出活動や集団活動を通じて、他者と交流する機会を設ける。その中で、順番を待つ、協力する、相手を意識するなどの経験を重ね、社会的スキルの向上を図る。						
家族支援	送迎時の会話などを通じて保護者のニーズを把握し、日々の支援内容に反映する。定期的に保護者面談を実施し、専門職を含む職員チームが子育てに関する助言を行うとともに、必要に応じて社会資源の活用について情報提供を行う。			移行支援	児童の発達段階を把握し、就学先が適切であるか、保護者や学校等と連携を図りながら支援をしている。本人にとって無理のない環境の提案をしていく。			
地域支援・地域連携	地域の福祉作業所等が開催するイベントに参加し、地域社会とのつながりを体験する機会を設ける。			職員の質の向上	外部研修及び社内研修を行う。事故報告書・ヒヤリハットの作成を徹底し、再発防止に努めている。昼礼で支援の振り返りをし、利用者様の変化を共有することによって、より良い支援に繋げて行く。			
主な行事等	初詣、節分、バレンタイン、夏祭り、水遊び、ハロウィン、クリスマス等を企画。公共機関を利用した外出・フードコート等を利用した外食レク。公共施設（博物館・科学館・水族館等）の利用を通し、様々の事を経験しながら外出時のマナーとルールを学ぶ。							